

## 佐世保高専の就職意識・価値観について\*

稲永善数\*\* 森田英俊\*\*\* 高比良秀彰\*\*\* 志久修\*\*\* 城野祐生\*\*\*  
高山能博\*\*\* 山内詮男\*\*\*

### On the Consciousness and Sence of Values about "Finding Employment" in Sasebo National College of Technology

Yoshikazu INENAGA Hidetoshi MORITA Hideaki TAKAHIRA Osamu SHIKU  
Yuuki JOHNO Yoshihiro TAKAYAMA Akio YAMAUCHI

#### 1. はじめに

全国工業高等専門学校教育方法改善共同プロジェクトの担当校として、アンケート調査を行った。その中で、本校学生の志向について議論する。

#### 2. 集計方法

##### 調査概要

##### A 調査の意図

全国高等専門学校の学生がどのような「職業観・就職観」を持っているのかを調査することにより、そのアンケート結果から「望ましい職業観」を確立する為の基礎資料となるものである。

##### B. 調査対象者

長崎県工業高等学校の生徒三千六百名、九州沖縄高等専門学校一年生～五年生全員全国高等専門学校（九州・沖縄を除く）一年生～五年生までの、任意の二学科。普通科一～三年生二百名 計約二万七千五百五名、各学科が平等に抽出出来るように、各高専に学科を指定した。

##### C. 調査方法

各項目、対称的な項目を抽出、1～5までの、いずれの番号が望ましいと考えるかを、マークさせた。質問項目は六十五項目マークシート方式によるアンケート調査した。

#### 3. 本論

##### 3. 1 若者の生活スタイルに関して

「現在という時間が大切」「安定した生活」「趣味に休日のために」「他人からの評価を気にしつつ、自分の気持ちを大切に」

というのが半数を占めている。「自由な時間と安定した生活、住む場所にはこだわらないが、親しい友人や恋人と過ごせること」が高い数値を示している。しかし、その中でも「他人からどう思われるか」という人の目を気にする若者の実像が浮かび上がる。平和な日本ならではのアンケート結果と考えられる。

「お金やものを重視」に関しては、四割の学生がそうは思わず、アメリカやヨーロッパのように金銭的な価値意識が高い国とは、大きく異なっている。ちなみに、アメリカ、ヨーロッパの若者は九割が、収入を得るために仕事をすると答えている。以下、そのアンケート結果である。

\* 原稿受付 平成21年9月30日

\*\* 佐世保工業高等専門学校 一般科目

\*\*\* 佐世保工業高等専門学校 キャリア教育支援室

	非常にそう 思う・まあ そう思う	あまりそう思わ ない・全くそう思わ ない
現在という時 間を重視	56.0% (56.2%)	19.3% (19.3%)
お金やものを 重視する	24.9% (21.5%)	38.3% (42.6%)
安定した生活 を重視する	55.4% (53.9%)	19.6% (20.1%)
都会での生活 がしたい	36.8% (40.2%)	24.7% (22.7%)
趣味に為の休 日を重視する	51.9% (51.7%)	20.0% (23.2%)
住む場所には こだわらない	47.4% (51.4%)	23.0% (19.6%)
少ないが親し い友人	58.1% (48.9%)	25.1% (23.8%)
他人からの評 価は大切	48.6% (50.5%)	19.8% (20.0%)
自分の気持ち を大切にす	36.0% (38.6%)	26.3% (26.2%)

表1 若者の生活スタイルに関して

上段の割合は、全国、括弧( )の割合は、佐世保工業高等専門学校の数値である。

本校では、高専全体からすると、「都会での生活」、「住む場所にはこだわらない」、「他人からの評価を気にする」という項目がやや高い数値を示している。一度は都会に出て、働いてみたいという気持ちがそうさせているのだろうか。ちなみに1年生機械科に「どのような場所で働きたいか」と尋ねたところ、90%の学生が「福岡」と答えた。これは佐世保に近く、しかも都会である場所では身近であるので、福岡と答えたのであろう。

### 3.2 職業・仕事の条件に関して

高専生の六割は、身体を使うことより、頭を使って仕事をしたいと考えている。

学科別にこれを見ると、工業高等学校の多くは、「頭より身体」、機械・造船・建設系も「頭より身体」、一方、情報・制御系は、明確に「身体より頭」を用いて仕事をしたいと答えている。仕事の内容、性質上、首肯できる結果となった。

派遣社員切りの問題がマスコミを賑わせている時代なのか、圧倒的に70%以上の学生が、正規社員を望んでいる。しかし、約一割の学生がそうではない事実をどのように解釈すべきなのか。「モラトリアム人口の拡大」、三〇、四〇代になっても親に依存する「家庭での経済的依存の長期化」が見え隠れするようである。社会人としての、義務を果たすための教育が、この一割の学生に対して必要なのではないかと考えられる。

上記の数値で、意外に感じたのが「若者の安定志向型人口三割」

すなわち、「家庭重視」「仕事をする場所が近い」「同じ組織の中で生涯を」

など、中高年の保守的な大人が口にする事項を、三割もの学生がそう思うと答えていることが現代若者の気質を表しているように感じる。

逆に「三割」の学生が、

「家庭重視の生活や同じ組織の中では厭だ」と答えているのと対照的で面白いものである。

逆な見方をすれば、保守的ではない攻撃性があるのが一般的な若者の特権、革新的、覇気ある学生が三割もいるのだと解釈する方がいいのかもしれない。少なくとも若者は、「家庭重視」などと中年や老人が唱えるようなことに賛同はして欲しくないものである。

## 佐世保高専の就職意識・価値観について

	非常にそう 思う。まあそ う思う	あまりそう思わな い。全くそうは思 わない
家庭重視の生活	34.2% (37.0%)	39.5% (29.2%)
身体を使う仕事	23.9% (21.9%)	61.1% (43.6%)
仕事をする場所 が近い方	33.6% (30.6%)	61.1% (47.6%)
同じ組織の中で 生涯を	34.8% (40.2%)	30.5% (30.5%)
収入が多い仕事	43.4% (42.7%)	18.3% (19.6%)
結果で評価され る仕事	47.4% (26.2%)	23.0% (37.8%)
少ないが親しい 友人	49.2% (49.4%)	33.9% (23.8%)
正規社員	73.9% (77.8%)	8.1% (6.2%)
自分の気持ちを 大切にす	36.0% (38.6%)	26.3% (26.2%)

表2 職業・仕事の条件に関して

3.3 自由に生きること・拘束されたくない事  
に関して

## 「自由に生きたいな」人口三割

## 「フレキシブルな時間で仕事ができるがよい」

と答えたのは、わずか三割であった。確かに自由に仕事時間は選ぶことのできない現実を認識している結果であるかもしれないが、上記の項目に関しては、ほぼ正規分布となっている。すなわち、「3対4対3」で自由に生きたいと思いつつも、そうはできない社会の現実を認識する若者の実像が見えるようである。

	非常にそう思 う・まあそう 思う	あまりそう思 わない・全く そうは思わな い
個人としての範囲が明確 に切り分けられる仕事 がよい	34.9% (36.4%)	24.0% (24.2%)
フレキシブルタイムがあ る仕事 がよい	30.6% (34.3%)	29.0% (27.6%)
自分の時間が大切である	28.4% (27.6%)	35.5% (35.6%)
自分個人の自由な時間を 重視	26.0% (24.7%)	39.6% (44.4%)
自分の気持ちを大切にす る	36.0% (38.6%)	26.0% (26.2%)

表3 自由に生きること・拘束されたくない事  
に関して

## 3.4 評価されることに関して

他人からどう見られるかは重要

社会的評価を気にする学生と、そうは思わない学生がほぼ等しくなっている。

ただ、「他人からどう見られているか、どのように評価されているか」に関しては、半数近くが重要であると答えており、それによって自分の存在感の確認ができることによるのだろうか。

「社会に評価されなくても人々に貢献できる事を生き甲斐に感じられる仕事が良い」

「他人からどのように評価されているか重要である」

という項目は全国の平均値よりやや高い。これは世間を気にしながらも、仕事を通し、社会貢献したいという本校学生の「やや消極的な」姿勢が見え隠れして面白い。本校はすべての項目に対して、見事なまでの平均的な数値となっている。本校は、

高専の中で平均的な意識、性向をもった学生が多いということを示している。

	非常にそう思う まあそう思う	あまりそう思わない 全くそうは思わない
社会的評価を受ける生活を重視する	28.6% (26.2%)	39.9% (37.8%)
他人からどのように評価されているか重要である	48.6% (50.5%)	29.8% (20.0%)
結果で評価される仕事がよい	28.5% (26.2%)	33.9% (37.8%)
社会に評価されなくても人々に貢献できる事を生き甲斐に感じられる仕事がよい	34.1% (36.0%)	24.8% (25.3%)
社会的地位を重視する	32.6% (36.1%)	35.0% (32.0%)

表4 評価されることに関して

### 3. 5 仕事と家庭生活に関して

現代には、もう会社人間は存在しないのか？

大正時代のサラリーマンは、会社のために命を賭けて働いたものである。猛烈サラリーマンという時代もあったが、その時代から数十年、現代の若者の半数は、少なくとも「会社人間」ではないようである。会社があつてこそ家庭、家庭があつてこそ会社なのであるが、その中でも二割の学生は、自分の家庭よりも会社生活が大事であると考えている。そういう若者は、会社にとって有り難い存在かも知れない。

現代は、会社で一生懸命働き、一端会社を離れると家族のことを「わりきって」考えることが一般の若者の志向となっていることを示している。

	非常にそう思う・まあそう思う	あまりそう思わない・全くそうは思わない
家庭を重視する生活がよい	34.2% (37.0%)	31.5% (27.2%)
安定した生活を重視する	55.4% (53.9%)	19.6% (20.1%)
趣味の為の休日を重視する	51.9% (51.7%)	20.0% (23.2%)
仕事は生活安定の手段である	55.7% (53.4%)	20.9% (21.6%)
友人や家族と共にできる仕事	43.5% (38.8%)	19.2% (18.9%)

表5 仕事と家庭生活に関して

### 4. 本校の特徴

佐世保は、長崎の北部に位置し、佐賀県と長崎県からの学生をメンバーとしている。

長崎県の工業高等学校3600名のアンケート結果と比べ、「愛校心」や「公益的志向」の面でやや数値が低い。他の高専に比べ、学校に対する帰属性や愛校心については、高い数値を示している。アンケート結果については、見事なほどの全国の平均値とほぼ同じ数値であり、平均的な若者の実情を知る上で本校のアンケート結果は参考になる。

高専では、「社会のために仕事を通し貢献できる」ことを肯定的に捉えている学生は、66%を占め、日本全体の10%の数値よりもはるかに高い。これは高専独自の「くさび型教育」の成果、現れであり、日本の教育の一石を投じる数値となっている。本校も同じ数値であり、高専教育を続けることが日本の「土台骨」を強くするものであることを改めて認識する結果となった。